

基礎医学委員会（第26期・第2回） 議事要旨

I 日 時・場所 令和6年4月23日（火）12:00～12:50

日本学術会議6階 6-B会議室及びオンライン会議システム併用

出席：五十嵐和彦、岡村康司、加藤和人（オンライン）、金井好克、狩野光伸、佐々木裕之、西谷陽子、野田岳志、安友康二、山田泰広、柚崎通介、渡辺雅彦

欠席：神田玲子、古屋敷智之、米田美佐子

（敬称略、五十音順）

II 議 事

1 前回議事録について

五十嵐委員長より、前回議事録案について内容の確認の依頼があった。

2 分科会の設置状況について

五十嵐委員長より、分科会の設置状況について説明があり、8個の分科会が設置されたことが報告された。複数の分野にまたがる動物関連の分科会の立ち上げが予定され、設置提案の準備がなされていることが報告された。

3 分科会の活動状況ならびに活動方針について

分科会の活動状況ならびに活動方針について情報交換がなされた。

形態・細胞生物医科学分科会について、渡辺委員から説明があり、今回の総会開催後に分科会開催の予定であること、2年に一度の高校生に対するシンポジウムの準備が進められていることが報告された。

IUPS分科会について、岡村委員より説明があり、2025年にフランクフルトで開催される年会のプログラム策定が行われていることが報告された。

神経科学分科会については、柚崎副委員長からの第二部会での報告内容が確認された。

IUBMB分科会について、五十嵐委員長より、日本生化学会と連携しながら国際分子生物学連合の運営に関与していることが報告された。

IUPHAR分科会について、金井委員から説明があった。国際薬理学連合に委員を送っていること、若手の参画を促しながら、連合の運営に参加していることが報告された。

ICLAS 分科会については、活動内容について情報を収集した上で必要に応じて委員会に周知することが確認された。

機能医科学分科会について、金井委員より説明があった。機能に着目した研究分野において関係者コミュニティの連携、人材育成、分野を超えた学際研究の実施を目指した活動が行われていることが報告された。解剖学会、生理学会、薬理学会の3学会合同シンポジウムの開催が企画されていることが報告された。

アディクション分科会について、西谷幹事から説明があった。2月に開催された分科会において、アディクション研究センターや前期から準備されてきた提言について議論されたことが報告された。また、国際神経精神薬理学会での市民公開講座の開講を企画していることが報告された。

4 基礎医学委員会の活動方針について

科学者委員会において議論されている第7期イノベーション基本計画への提言策定の進行状況について情報共有された。研究力強化のための環境改善に向けてどのような提言が必要であるかについて議論された。

まず、基礎医学領域での特有の問題について意見交換が行われた。委員からは、研究基盤整備のための研究費増額の必要性や、ポストドクや特殊技能を持つテクニシャンなどの雇い止め問題、高額先端機器の共同利用が十分に進んでいないこと、大型機器が導入されたとしても、その運用をサポートする体制が整備されていないことなどの課題が挙げられた。また、医療情報を含めたヒトデータの利用が十分になされておらず、個人情報の保護を図りながらヒトデータの有効活用を可能とする体制構築の必要性について議論された。医学研究領域において柔軟な予算執行が難しい点も指摘された。

これらの問題解決に向けて、第7期イノベーション基本計画へ反映させる努力をすることが確認された。

他に基礎医学委員会で検討すべきことがあれば、五十嵐委員長に連絡する旨要請があった。

5 その他

特になし。

以上